



○前略、研修会より 令和4年7月開催 兵庫区医師会会議室+オンライン

第11回兵庫区在宅医療スキルアップセミナー「多職種で支援する摂食嚥下障害～訪問歯科医師から学ぼう編～」

日時：令和4年7月21日（木）18時～19時30分

参加：45名

講師：三浦 康寛 先生（兵庫区歯科医師会 なかたに歯科クリニック）

内容：

訪問歯科医師として

最期まで自然に生活できるようにサポートするのが在宅医療の役目であり、歯科医師として嚥下機能の評価診断をしているが診断結果だけから「こうしなさい」とは言わない。その方の環境や希望やりたい事を第一に考え、それを総合しての話をする。あくまで多職種の中の一人として診断をする。

食べられない原因を考える

喉だけが原因ではない。食べたくない、噛めない、飲み込めないのはなぜかを考える。内服薬の副作用による食欲不振の場合には管理栄養士に栄養評価をしてもらい客観的データを示すことで安心が得られる。

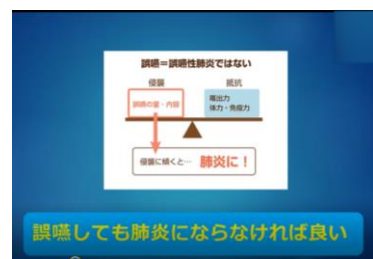
摂食嚥下障害による誤嚥性肺炎について

侵襲と抵抗のバランスを必ずみる。誤嚥しても肺炎にならないようにしっかりむせて出せばよい。しっかりと栄養がとれて免疫機能が保てればバランスは崩れない。口の中と喉だけでは診断しない。どこが弱いのか、どこを強くできるのか、そのバランスを整えるようにしていくのが私の仕事。

多職種連携が大切

リハビリ・栄養・口腔ケア等に関わるそれぞれの職種が協働すること、リアルタイムでの情報共有（この前まで食べてたんですは危ない）、多職種で見守ることが大事。患者さんの食べたい、食べることができる 喜びと自信を大切に!!

4つの症例紹介を交え、食べられない原因を考えていく過程、VE（嚥下内視鏡検査）の映像を用いた説明、とろみについて等もお話いただきました。



～～～ 質疑応答より ～～～

○ヘルパーとの連携について 現状はケアマネジャーを通してとなっているが、より密に連携をとっていきたいと考えている。いちばん変化がわかるのはヘルパーなので主役になってもらいたい。歯ブラシの仕方でも食べ物の準備でも気軽に聞いてもらえる関係を作っていきたい。

○嚥下機能を簡単にみられる方法について 挨拶の声の感じでもわかる。安全に行う方法として、とろみをつけた水を飲んでもらい、徐々にとろみを薄くしていく。姿勢やどのくらい座ってもらうのか、寝たままではだめなのか等々考える必要もある。

○管理栄養士にコンサルトしたいと思った時にはどのようにすればよいか。 歯科では指示書が出せないの、主治医へお願いすることになる。介護保険の1割負担の方の場合、自己負担は1回600円弱。

○進行性の疾患の方で 最近唾液量が多くなって唾液によるムセもひどくなった印象です。唾液量の調節に関して何かできることはないでしょうか。唾液が増えるということは基本的にはない。薬剤性の場合や加齢変化でも減る。ただ今まで飲んでいたものが飲めなくなり唾液が増えているように見えてくるということはある。唾液腺を冷やす、ボトックス注射を打つ、軟膏を塗る等で減る方もいるが、唾液量の調整は難しい。出てきたものをどう処理していくかを考えていかないとけない。

～～～ アンケートより ～～～

- ・訪問歯科さんと積極的に意見交換し相談し合える関係性を作りたいと思う。（施設介護職）
- ・薬剤性の食欲不振のために摂食障害があるとのこと。情報共有をしっかりとしていきたい。（薬剤師）
- ・嚥下機能の判断で、声の感じや姿勢を見るポイントもあること。（歯科衛生士）
- ・三浦先生や歯科衛生士さん、そこのクリニックにおられる管理栄養士さんと連携し、訪問看護として訪問する利用者様の口腔や摂食嚥下、栄養に関することのケアを充実させたい。（看護師・保健師）
- ・管理栄養士さんの介入を助めていきたい。（ケアマネジャー）
- ・認知症の進行や薬の影響による嚥下障害について、理解して患者にかかわっているつもりだったが実際に症例を通して、VEなどの映像を見て個人差があることを痛感しました。固定概念を持ちすぎず、患者に関わっていきたいと思いました。

三浦先生からのメッセージ

「嚥下診療ってどんな事をするの」「リハビリしたら食べられるようになるの」など様々なご質問を頂きます。

たしかに病院に行って検査をして、リハビリをすると治ると思いますよね。

私が担う「在宅医療での嚥下診療」の検査はあくまでも情報のひとつにすぎません。

上図にもあるように「誤嚥しても肺炎にならない」環境を整えることが嚥下診療だと考えております。

それには多職種での情報共有、協働が必須になります。

皆さんで利用者さまの「安全に食べ続ける」を見守っていきましょう。



『なごみサロン 暮らしの保健室』をご存知ですか？

兵庫区東山町にある「なごみサロン 暮らしの保健室」には看護師さんがおられ、さまざまな相談にのってもらえます。相談だけでなく、地域の方の学びの場、交流の場であり、誰もが受け入れられる安心できる居場所です。

そんなサロンを一度覗いてみてはいかがでしょうか？

（写真では伝えきれません。心地よい雰囲気を実際に感じてみてください）



開設者の松本京子さんにお聞きします。

○暮らしの保健室を立ち上げられたきっかけをお聞かせください。

ホームホスピスに入居しなくても住み慣れた地域で暮らせるために健康寿命を延ばし、介護が必要になった時にどう過ごしたいか考えるための講座や療養相談に気軽に立ち寄れる場所や孤立しない支援が必要と考えて開設しました。



○どんな方が来られますか

主に後期高齢者の方々ですが療養相談は年齢に関係なくがんと診断された方や胃ろうをつくるかどうか悩んで配偶者の方が来られます。

○どのような相談をされるのでしょうか。

「がんと診断された」「胃ろうをつくるかどうか迷っている」「介護保険利用はまずどこに行けばいいか」等々

○医療介護の専門職が相談に行ってもいいのでしょうか。

誰でもウエルカムです。人に話をすることだけでもいいこともあります。守秘義務は守ります。

○お茶だけでもいいのでしょうか。

もちろん、何かしないといけないことはありません。

○地域の方の暮らしで気になることは、何ですか。

皆さん生活の知恵があつてたくましく生きておられますが、医療や介護保険ですべてがかなうわけではありません。できなくなったことを追いかけていける残った力で生活習慣を変更する時期がきます。そのことも日頃から考えておくことが必要だと思います。

○今後の展望をお聞かせください。

1. 東山町の暮らしの保健室に幅広い年齢層の人にご利用いただけるように暮らしの保健室パンフレット作成中です。
2. 暮らしの保健室 がんサロンの開設は年内に実現を目指しています。

いい物件があればご紹介ください。

暮らしの保健室とは・・・訪問看護師の秋山正子さんが「気軽に訪問看護や在宅ケアに出会える仕組みを」と願い、英国のマギーズセンターを参考に2011年に新宿区に開設。今では全国に多くの暮らしの保健室ができています。誰でも予約なしに無料で、健康や介護や暮らしの中でのさまざまな困りごとの相談ができる場所です。数居の低い居心地の良い雰囲気、看護師はじめ医療の専門家がいるワンストップの相談窓口です。【暮らしの保健室ホームページ <https://kuraho.jp/>】



開講間近 第1回 兵庫区 魁! 在宅看取り塾

日時：令和4年8月18日（木）18時～19時30分

場所：兵庫区医師会会議室・オンライン

テーマ「神戸なごみの家から学ぶ！暮らしの中の看取り」

講師：松本 京子 先生（緩和ケア認定看護師）

神戸なごみの家 理事長

訪問看護ステーションあさんて・はな 管理者

なごみサロン 暮らしの保健室 開設者

暮らしの中の看取りって

どうすればいいの

一緒に考えましょう！

会場参加申込

Zoom参加申込



「兵庫区地域ケアネットワーク定例会」の秘密 ①

令和4年5月21日（土）14時から兵庫区地域ケアネットワーク定例会が兵庫区役所5階健康教育室で開催されました。
今年度の兵庫区地域ケアネットワーク定例会のテーマは「**場をつなぐ**」です。

5月の担当は兵庫区医師会です。地域住民を支える役割としての「**家庭医**」についてと、様々な問題の根源にある「**孤立**」を防ぐ方策のひとつとして「**社会的処方**」が取り上げられました。



講演「診察室から地域を見る」
講師 松島 和樹 先生（川崎病院総合診療科）

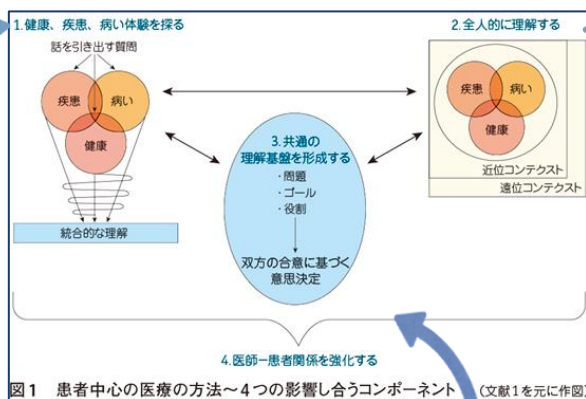
グループワーク 「地域の社会資源とは？」
地域ごとにグループになり地域資源の掘り起こしをしました。

「家庭医」って？

- 年齢・性別・症状などに**縛られず**
- 身体面だけでなく**心理面**や**社会面**も考えつつ
- 初期診療から慢性期ケア・看取りまで**様々な場面**で
- 外来、病棟、救急、在宅など**様々な場**で
- 診断・治療だけでなく**予防・健康増進**も考えながら患者さんをケアする医師

家庭医の診療スタイル【患者中心の医療の方法】

- ・疾患を探る質問だけではない問い
- ・患者がどういった体験をしているのか
かきかえ：解釈、希望、感情、影響
始まりから目の前に至るまでの道程
- ・健康観
どういった状態を望んでいるか
これまでにどういった体験を乗り越えてきたか



- ・患者を取り巻く環境
近位：家族、経済的安定、教育、雇用、趣味、社会的サポートなど
遠位：コミュニティ、文化、経済、医療制度、社会歴史、地理、エコシステムなど

- ・医療者の推奨と患者の希望のすり合わせ
- ・どちらかに偏らない意思決定
- ・これを継続して積み重ねることで医師患者関係が強化される

グループワーク
「地域の社会資源とは？」



社会的処方とは・・・説明いろいろ

- ・社会的処方（social prescribing）とは、患者の課題を解決するために、地域の活動やサービスなどの社会参加の機会を“処方”すること。社会的に孤立しないよう地域資源を活用することで、患者の健康やウェルビーイング（幸福で豊かであること）を向上させることを目的としている。
- ・薬を処方することで患者さんの問題を解決するのではなく『地域とのつながり』を処方することで問題を解決するというもの。
- ・かかりつけ医等からの申し出によりリンクワーカーを通じて、孤独・債務・雇用・人間関係等に悩む患者を社会的・情緒的・実用的なサポート（借金・雇用等のアドバイスのほか、芸術的活動、話し相手、スポーツや運動等）を行なう活動・サービスに結び付けることである。頭痛や腹痛などの症状で診察を受けた場合でも、かかりつけ医がそれらの症状の真の原因が孤独や借金苦など社会的要因によるものと判断した場合、ボランティア等の地域資源に詳しいリンクワーカーを通じて、多様な活動を行なう地域の支援グループや法律関係者等を紹介することで回復をはかる試みである。発祥国イギリスでは、1980年代から徐々に広まった。

※兵庫区地域ケアネットワークとは・・・介護保険法の施行等新たな制度環境の中で、①保健・医療・福祉サービス事業に関わるものが、相互の協力関係を確保し、②各種サービス事業、地域の保健・医療・福祉活動、及び行政施策などに関する情報を共有し、③サービスの質的向上とサービス利用調整機能の向上を目指し、関係者による横断的連携のもと、地域包括ケアシステムの構築を図ることを目的とし、賛同する関係団体等によって構成されています。

※兵庫区地域ケアネットワーク定例会は、地域ケアネットワークに所属する関係団体が2か月に1回開催している研修会です。
次の開催は 9月17日（土）14時から 神戸市医師会館4階大ホールにて 担当：兵庫区訪問看護ステーション連絡会

研修会開催予定

開催予定日時	場所	テーマ
R4. 8月18日(木) 18:00～19:30	・兵庫区医師会会議室 ・オンライン	第1回 兵庫区 魁! 在宅看取り塾  「神戸なごみの家から学ぶ! 暮らしの中の看取り」 講師: 松本 京子 氏 (緩和ケア認定看護師) 神戸なごみの家 理事長 訪問看護ステーションあさんて・はな 管理者
R4. 9月	令和4年6月開催の研修会動画をご視聴いただけます。案内後日	研修会リターンズ ～動画で会いましょう～ 兵庫区医療介護関係者研修会 「家族の捉え方を学び、家族支援を考える」 講師: 皆本 美喜 氏 (兵庫県看護協会家族支援専門看護師) 
R4. 9月	令和4年7月開催の研修会動画をご視聴いただけます。案内後日	研修会リターンズ ～動画で会いましょう～ 第11回 兵庫区在宅医療スキルアップセミナー 「多職種で支援する摂食嚥下障害 ～訪問歯科医師から学ぼう編～」 講師: 三浦 康寛 先生 (なかたに歯科クリニック)   

Hyogoku三択クイズ

三択王おれはなる!!



1. 能福寺の兵庫大仏は?

A.



B.



C.



2. 1924年(大正13年)に湊川公園内に建設された神戸タワーは?

A.



B.



C.



答え 1. B. 兵庫大仏 (Aは高德院の鎌倉大仏 Cは東大寺の奈良の大仏)

2. A. 神戸タワー

1968年(昭和43年)に解体され、跡地にはカリヨン時計塔が建っています。

(Bは初代通天閣 Cは浅草凌雲閣)

カリヨン時計塔 →



兵庫区医療介護サポートセンターは、医療、介護、福祉の関係者からの在宅医療に関する相談への対応や、各種の研修、市民の方への在宅医療・介護に関する普及啓発などの業務を行っております。
医療・介護・福祉関係者の皆様、お気軽にご相談ください。

兵庫区医療介護サポートセンター コーディネーター: 青山・藤本

受付時間: 月～金曜日(祝日・年末年始を除く) 電話: 078-575-5711 FAX: 078-575-5712

兵庫区医療介護サポートセンター: <https://kobe-iks.net/area/hyogo>



★次号は令和4年9月発行予定です

※「兵庫区つつな通信」第1号～今月号までホームページに掲載しています。
上のQRコード・URLからご覧いただけます。